



待降節第2主日 (マタイ 3:1-12)

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」(3・3) 私たちも洗礼者ヨハネからこの言葉を聞いて、待降節の準備を急ぎたいと思います。洗礼者ヨハネの呼びかけから、救い主イエスを迎える準備がどれほど大切なものか、もう一度考える機会としましょう。

皆さん公園デビューという言葉をご存知でしょうか。知っているという前提で、中田神父はこの前「アリーナデビュー」をしました。何を買ったかなあ。そうでした。「卵1パック・しゃぶしゃぶの豚肉2パック・豆腐2丁・エノキ1パック」を買ってきました。ただ残念ながら、だし昆布を買うのを忘れてがっかりしました。

皆さんもう一つ、キャッシュレス支払いというのをご存知ですか？現金以外の支払い方法です。キャッシュレス支払いだと5%の還元を受けられます。そこで店員さんに「Suicaでの支払いは可能ですか？」と聞いたら「大丈夫ですよ」と笑顔で対応してくれました。

こう言うのは失礼ですが、あの「アリーナ」でさえも、現金払いとキャッシュレス支払いが可能なんです。今回は1021円の買い物をSuicaで支払いを済ませましたが、51円の還元を受けて970円で済みました。私の理解ですが、スイカで払えるなら、ミカンでもリンゴでも支払い可能だと思います。今度試してみたいと思います。

さて、福音朗読に移りましょう。洗礼者ヨハネが教えを宣べる場面です。洗礼者ヨハネの語りは預言者の語り方そのものです。群衆の耳に心地よいこと場を語るのではなく、多くの場合群衆の耳に痛い言葉をまっすぐに語りかけます。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。」(3・7-8)

なぜ耳に痛い言葉を、遠回しにではなくまっすぐに語るのでしょうか。それはおいでになる救い主を迎える準備を怠らないためです。どんな言い逃れもできないような厳しい口調で、ここにいるすべての人が、おいでになる救い主が歩かれるまっすぐな道、整えられた道を今すぐに用意せよ。それが洗礼者ヨハネの伝えたいことです。どんな言い訳も通らない、はっきりした主張です。

ところが私たちは、仕方が無いと自分を納得させるような理由を並べて、イエスのために整えられた、まっすぐな道をなかなか用意しません。たとえば、どうしてもしなければならぬことがあったので、晩の祈りを後回しにします。後回しにただけではなく、どうしても時間が取れなかったので、晩の祈りをしないで寝たりするのです。

それはもちろん他人事ではありません。11月半ば、年内にご主人を亡くされた私の同級生から、新年のあいさつを失礼しますという案内が届きました。私のためにも連絡をしてくれた同級生だから、すぐに手紙を書いて力づける必要がありました。しかし、いろいろな仕事を抱えて、明日に回そう、明後日にしよう、年内なら大丈夫、と言い訳をして数日

が過ぎ、それでも返事をしなければとこの前手紙を書きました。

しばらく、返事は来ませんでした。「返事は来ないんだなあ」諦めかけていたその時に電話がかかってきました。感謝の電話でした。それまで離れて住んでいるお子さんが父親の死に大変ショックを受け、立ち直れるようにそばにいたため、私への連絡が遅くなったということでした。自宅に戻ってすぐに、電話をかけてくれたのでした。

私はすぐ思ったのです。「『主の道を整えよ。主の道をまっすぐにせよ。』この通りに振る舞うことが、人生に必要なことを果たす近道なのだ」と。おいでになる救い主に大きく心を開き、何を優先することが救い主の喜びになるだろうか、何に心を向け、心を寄せることを救い主は喜ぶだろうか。このことに特別な注意を払うなら、私たちは人生に必要なことを最短距離で果たせる。そう思ったのです。

お悔やみの手紙を書いて長く返事を待ったのでした。同級生はお子さんを力づけたあと、すぐに返事をくれました。人間的には長く待ったかも知れませんが、神の前にはすぐに返事をくれたのと同じことです。私が「どのように振る舞うことが、救い主をいちばん喜ばせるだろうか」その考えに正直に振る舞った時に、答えが返ってきたということです。人生に必要なことを最大限果たせる生き方は、「主の道を整えよ。主の道をまっすぐにせよ。」という生き方だと、改めて悟ったのです。

私たちは待降節を過ごしながら、救い主の到来を準備しています。確かに準備していますが、年末年始の用事の合間に、救い主を待っているのでしょうか。洗礼者ヨハネの呼びかけは、「何よりもまず、救い主のために道を整え、その道をまっすぐにせよ」です。私たちはそれでも、「いや、洗礼者ヨハネの呼びかけは二の次だ」と言うのでしょうか。私は今回の体験ではっきりと悟りました。「主の道を整えることに力を注げば、人生に必要なことはすべて整えてもらえる」と。

私は、自分が体験し、確信したことを語り続けます。たとえそれが今の時代にそぐわない、今の時代の人々の耳に煩わしい響きであったとしても、私は語り続けたいと思います。洗礼者ヨハネが告げる「救い主のために道を整えよ。その道をまっすぐに保て。」そこにキリスト者としての新しい道が開けます。私はそれを叫び続けて、クリスマスのその日を迎えたいと思います。